

**令和5年度
沖縄子供の貧困緊急対策事業
分析・評価・普及事業 調査報告**

大阪公立大学 現代システム科学研究科 山野研究室

目次

1. 調査概要
2. 連携手法分析 調査結果
3. スクリーニング普及拡大に関する活動報告
4. 総合考察

目次

1. 調査概要

2. 連携手法分析 調査結果

3. スクリーニング普及拡大に関する活動報告

4. 総合考察

◆ 調査の目的

子どもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自分の可能性を追求できる社会の実現を目指し、沖縄子供の貧困緊急対策事業の効果的な実施のため、沖縄県内の子どもの貧困の状況を把握することを目的とする

◆ 調査種別

(1) 連携手法分析

(2) スクリーニング普及拡大に関わる活動報告

◆ 調査実施主体

沖縄県(子ども生活福祉部 子ども未来政策課)

◆ 調査研究業務受託者

大阪公立大学 現代システム科学研究科 山野則子研究室

目次

1. 調査概要

2. 連携手法分析 調査結果

3. スクリーニング普及拡大に関する活動報告

4. 総合考察

調査の目的

- ◆義務教育ですべての子どもが通う学校において様々な問題につながる可能性のある経済的なリスクを発見し、支援事業につなぐことができないか検討する。
- ◆ツールとして、文部科学省も推奨している(文科省2020)大阪公立大学山野研究室で開発しているYOSS(Yamano Osaka Screening System)を活用する(山野ほか2020)。
- ◆沖縄県におけるモデル校(小学校・中学校)において、すべての子どもを対象にスクリーニング会議にかけて、貧困や様々な困難を抱える子どもを早期に校内で発見する。

調査の対象と方法

- ◆ 昨年度に引き続き、スクリーニング実施自治体として糸満市と南城市を対象とし、両市の教育委員会協力のもと、調査を実施した。
- ◆ YOSSクラウドサービスを利用中である糸満市の小学校10校、南城市の小学校3校と中学校1校のデータを分析に用いた。
- ◆ 入力されたデータ(今年度1回分)を集計し、昨年度との比較を行った。



- ・全児童生徒での比較
- ・経済的に家庭状況が厳しい子どもにおける比較
- ・経済的に家庭状況が厳しい子どもの1年間の変化

学校版スクリーニング YOSSについて



- ◆ 支援が必要な児童生徒を抽出(チーム会議にあげる)し、支援の方向性を自動(AI)判定
- ◆ スクリーニングのために入力する項目は計33項目(+学校独自項目)
 - 学級担任を中心に子どもと関わる教員は、欠席や遅刻・友人関係・授業中の様子など学校適応や学習、家庭状況について15項目
 - 特別支援担当者は支援学級の在籍等について2項目
 - 養護教諭は成長などの健康について4項目
 - 事務は要保護や諸費について2項目
 - 管理職・生徒指導担当者はこれまでのスクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)との関わりについて3項目、地域担当者は学童保育利用などについて5項目、いじめアンケート調査などについて2項目

調査結果① ～昨年度との全体の比較～

令和4年度

1学期	小学生全体 (n=4490) 合計点の範囲：0点～27点；合計点の平均値=1.86						
	学年	1年生 (n=733)	2年生 (n=746)	3年生 (n=807)	4年生 (n=728)	5年生 (n=738)	6年生 (n=738)
	平均値	1.19	1.74	2.01	2.20	2.07	1.94
2学期	小学生全体 (n=4343) 合計点の範囲：0点～34点；合計点の平均値=1.30						
	学年	1年生 (n=710)	2年生 (n=730)	3年生 (n=786)	4年生 (n=691)	5年生 (n=716)	6年生 (n=710)
	平均値	1.01	1.50	1.25	1.21	1.58	1.24
	中学生全体 (n=457) 合計点の範囲：0点～33点；合計点の平均値=3.03						
	学年	1年生 (n=172)	2年生 (n=143)	3年生 (n=142)			
	平均値	4.13	2.63	2.10			



令和5年度

1回目	小学生全体 (n=5575) 合計点の範囲：0点～28点；合計点の平均値=2.71						
	学年	1年生 (n=957)	2年生 (n=921)	3年生 (n=915)	4年生 (n=974)	5年生 (n=900)	6年生 (n=908)
	平均値	1.95	2.19	2.93	2.64	3.63	2.99
	中学生全体 (n=321) 合計点の範囲：0点～22点；合計点の平均値=3.11						
	学年	1年生 (n=149)	2年生 (n=172)	3年生 (n=-)			
	平均値	3.04	3.16	-			

- 調査対象は小学生5,575人、中学生321人であった。
- 昨年度と比較して、小学生では点数の上昇がみられた。
- 中学生はわずかに上昇していたが、大きな変化はみられなかった。

調査結果② ～家庭状況の厳しい子どもについての検討～

令和4年度

	要保護・準要保護	諸費	要保護・準要保護かつ諸費	項目全体
人数	365	114	48	4947
合計点	1630	670	491	9732
平均値	4.47	5.88	10.23	1.97



令和5年度

	要保護・準要保護	諸費	要保護・準要保護かつ諸費	項目全体
人数	693	124	90	5896
合計点	3370	1003	1061	16113
平均値	4.86	8.09	11.79	2.73

- 昨年度と同様、「要保護・準要保護」や「諸費」にチェックが付けられた子どもは、全体と比べて点数が高かった。
 - 「要保護・準要保護」と「諸費」の両方にチェックが付けられた児童生徒の課題が、昨年度以上に表面化していると考えられる。
- 年々点数が増加していることから、経済状況の厳しい児童生徒の課題について、教員がより把握し、アプローチしていこうとしていることの表れとも考えられる。

調査結果③ ～1年間でどう変化したのか？（貧困世帯）～

対象：貧困世帯，経済的な困難さを抱えていた世帯の児童

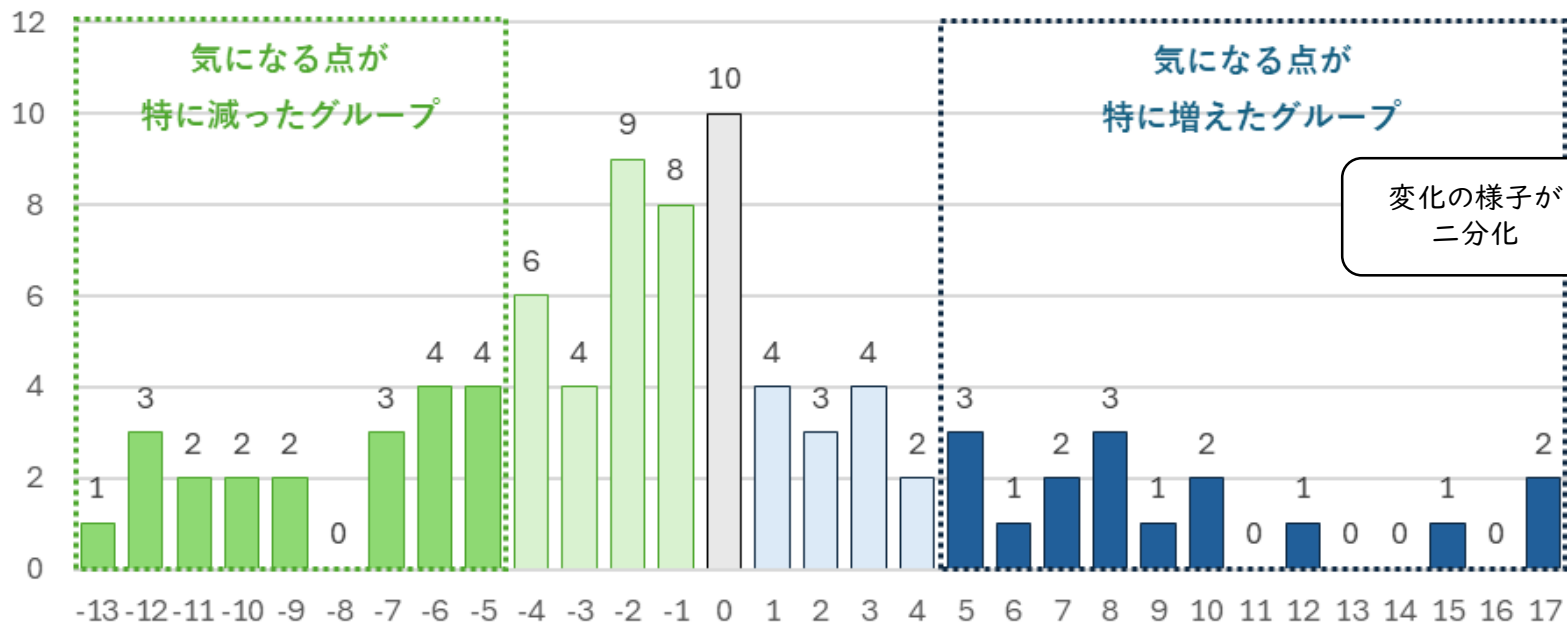
2022年度にスクリーニング項目の「諸費」にチェックが付いていた児童（n=87人）

注）2022年度と2023年度のデータを紐づけることができた児童のみ

total 平均値の変化	2022年度	2023年度
2022年度 諸費✓の児童	8.1点	7.4点
全体 <small>（データを紐づけできない児童は除く）</small>	2.3点	2.9点

昨年度より0.7点Down！
しかし全体の平均値と比べると
諸費✓の児童は依然様々な問題を抱え込みやすい

2022年度諸費✓の児童 2022年度→2023年度 totalの変化



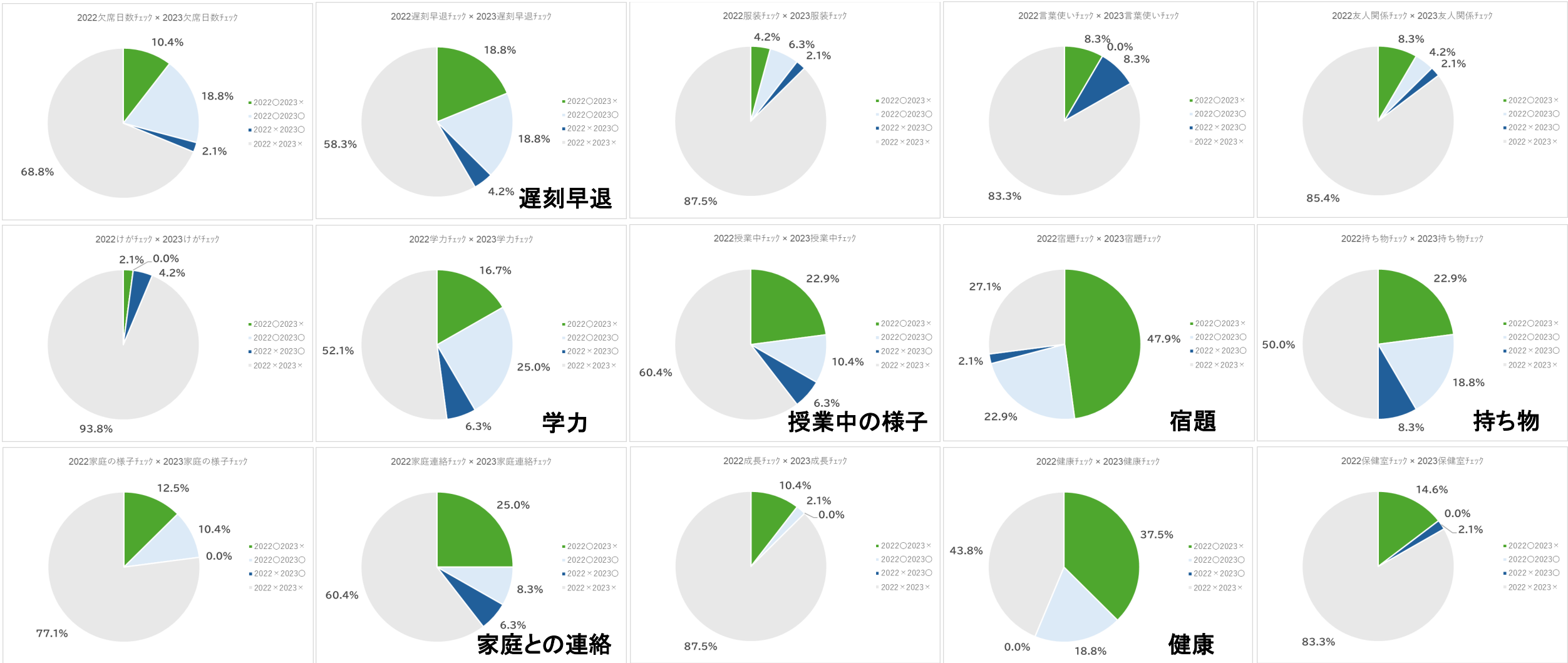
気になる点が	人数
5点以上減った	21人
1～4点減った	27人
増減なし	10人
1～4点増えた	13人
5点以上増えた	16人

前年度同じように経済的な困難さを抱えていた
気になる点が減ったグループと
気になる点が増えたグループ
それぞれ1年間でどのような変化が生じていたのか？

2022年度→2023年度 1年間でどう変化したのか？(貧困世帯)

チェックが減った割合は？

* 2022年度に経済的に困難を抱えていたけれど 2023年度に気になる点が減った児童は どういう問題が解決したのか？

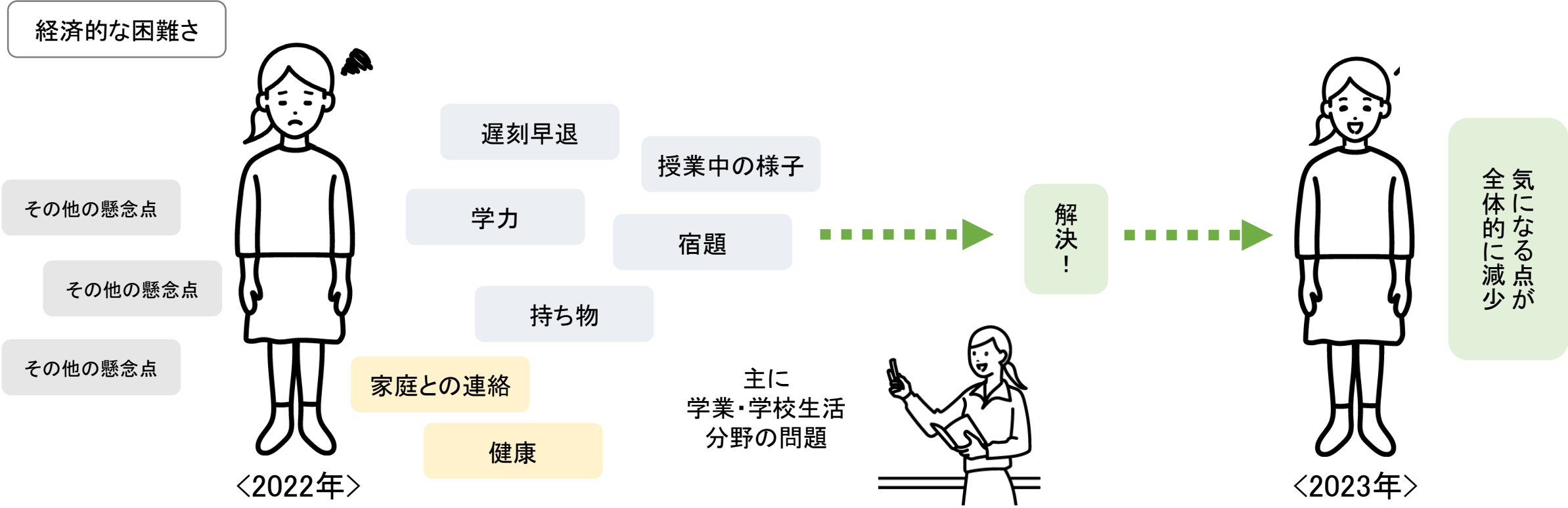


<円グラフの読み方> (が全体の15%以上を占めている項目を太字にしている。円グラフ全体=48人)
 は2022年まで問題を抱えていたが2023年に解決できた児童, は引き続き問題を抱えている児童
 は2022年までは問題なかったが2023年に問題を抱え始めた児童, は引き続き問題を抱えていない児童

2022年度→2023年度 1年間でどう変化したのか？(貧困世帯)

チェックが減った割合は？

* 2022年度に経済的に困難を抱えていたけれど 2023年度に気になる点が減った児童は どういう問題が解決したのか？

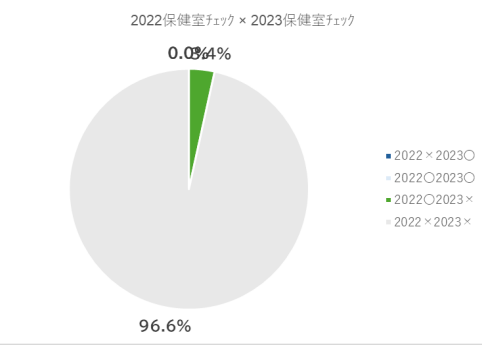
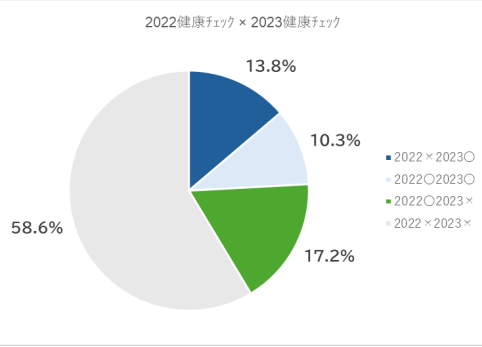
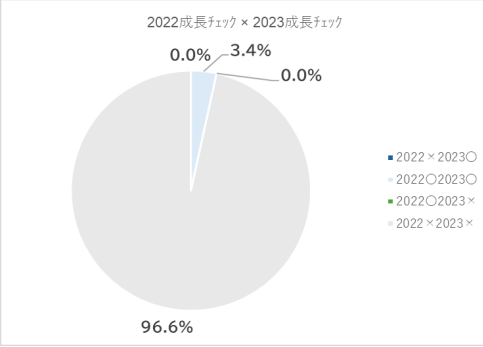
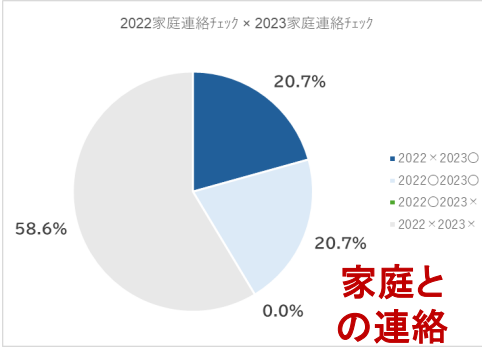
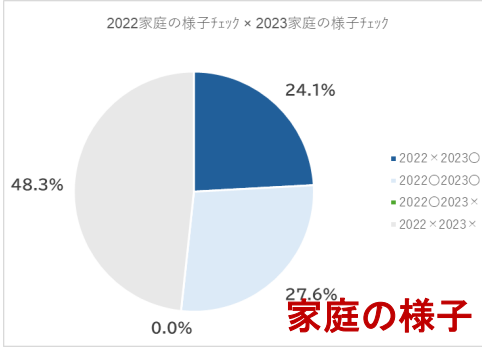
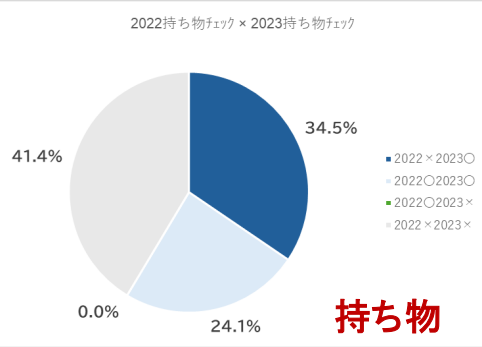
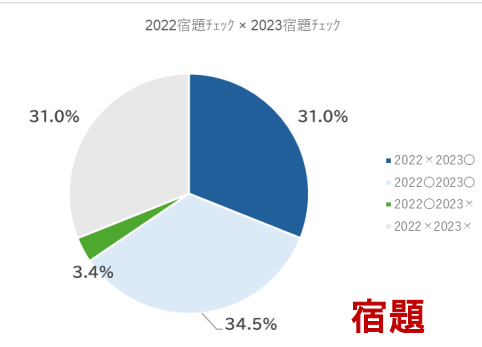
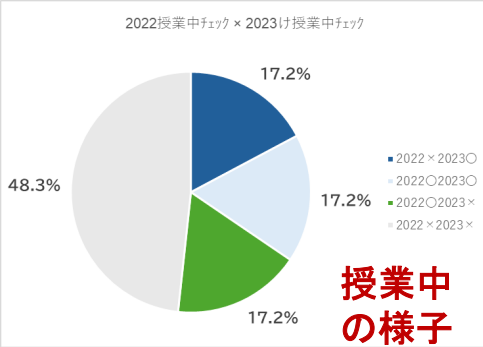
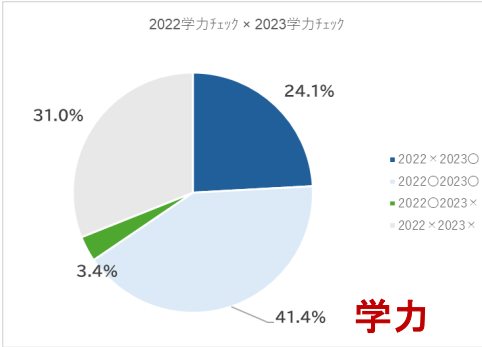
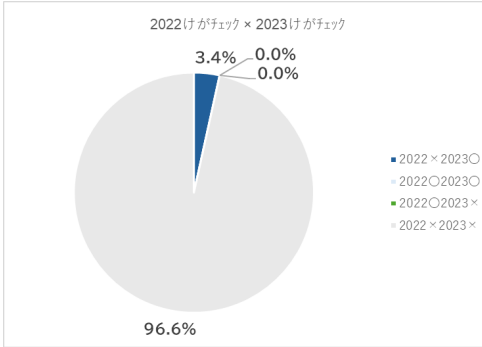
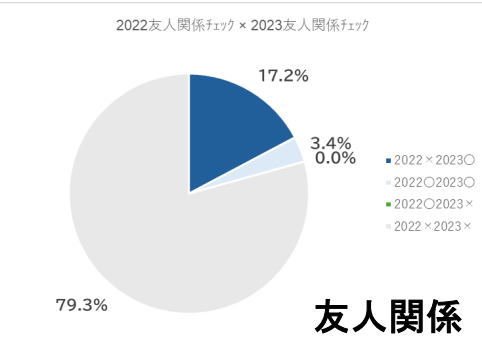
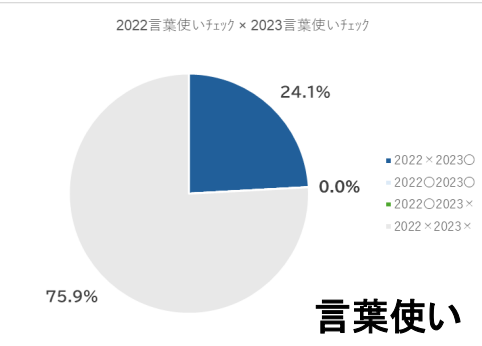
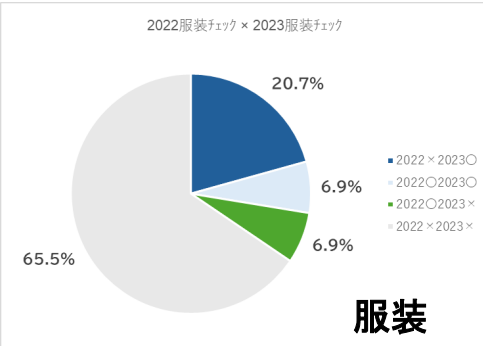
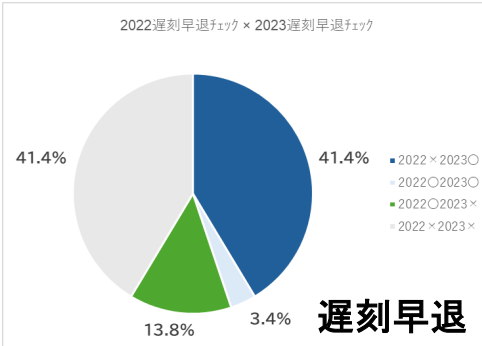
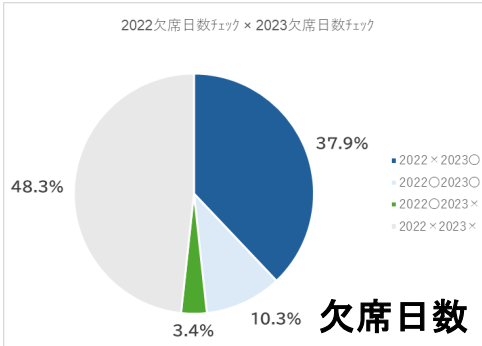


気になる点が減少した児童の1年間の変化の様子を見ると
引き続き問題を抱え続けている児童も一定数いるものの特に**学業分野での改善率が高く**
学業・学校生活に対するアプローチが
経済的に困難を抱えていたとしても、児童にとって全体的な改善を促したと推測される

2022年度→2023年度 1年間でどう変化したのか？(貧困世帯)

チェックが増えた割合は？

* 2022年度に経済的に困難を抱えており 2023年度気になる点が増えた児童は どういう問題を抱えはじめたのか？

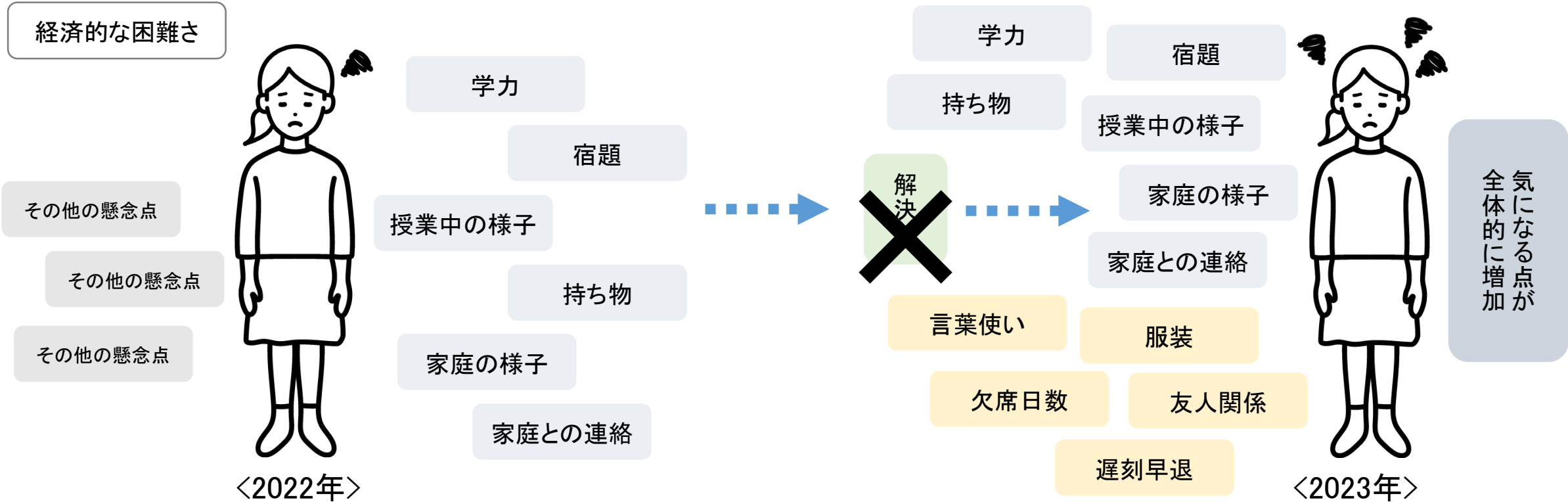


<円グラフの読み方> (■ が全体の15%以上を占めている項目を太字に、さらに ■ も全体の15%以上を占めている場合赤字にしている。円グラフ全体=29人)
■ は2022年まで問題を抱えていたが2023年に解決できた児童, ■ は引き続き問題を抱えている児童
■ は2022年までは問題なかったが2023年に問題を抱え始めた児童, ■ は引き続き問題を抱えていない児童

2022年度→2023年度 1年間でどう変化したのか？(貧困世帯)

チェックが増えた割合は？

* 2022年度に経済的に困難を抱えており 2023年度気になる点が増えた児童は どういう問題を抱えはじめたのか？



気になる点が増えた児童の1年間の変化の様子を見ると
経済的に困難を抱えていた世帯の児童に対しては
たとえ現時点では学業・学校生活分野に問題がなくても注視・対策しておかなければ
全体的な深刻化を導く可能性がある

2022年度→2023年度 1年間でどう変化したのか？(貧困世帯)

* 2022年度に経済的に困難を抱えていた世帯の児童について

気になる点が減少したグループ

気になる点が増えたグループ

の1年間の変化の様子を分析した結果をまとめると…

経済的に困難を抱えていた世帯の児童において

- 児童に対する学業・学校生活分野での支援やフォロー、働きかけが全体の底上げにつながっており

その効果の大きさと、学業・学生生活分野で新たに問題が生じやすくなる点を踏まえると

- 現時点では学業・学校生活分野に問題のない児童に対しても、予め注視したり対策することが悪化防止に

調査結果のまとめ

- ◆ 全児童生徒のスクリーニング点数(チェック数)は昨年と比較して上昇していた。
- ◆ 経済的に家庭状況の厳しい(「要保護・準要保護」「諸費滞納」にチェックがある)子どもについても、昨年度よりスクリーニング点数は上昇していた。
- ◆ 経済的に家庭状況の厳しい子どもについては、学業・学生生活分野での支援やフォローが好転につながる可能性がある。

目次

1. 調査概要

2. 連携手法分析 調査結果

3. スクリーニング普及拡大に関する活動報告

4. 総合考察

概要

- ◆ 昨年度から継続している糸満市と南城市に加え、新たに実施自治体となったうるま市の各学校において、研修会およびスクリーニング会議やチーム会議へ参加した。
- ◆ 沖縄県や内閣府も参画した合同会議の場にも参加し、より効果的なスクリーニングの在り方について検討し、実施自治体の普及拡大に向けた取り組みを行った。

活動の成果3-①

- ◆ 校内チーム会議やスクリーニング会議へのオンライン参加のほか、9月には現地訪問を行い、主に南城市の教員の方々を対象としたスクリーニング研修会を実施した。
- ◆ 昨年度から多くの関わりがあった玉城中学校では、地域や行政が学校に入り子どもを支援する体制が定着しつつある。これにより、現場の教員に「地域資源の活用」という意識が根付いてきており、教員だけで抱え込む体制から一歩前進したと言える。

活動の成果3-②

- ◆ 山野研究室として令和5年度、新たに「YOSSマイスター養成講座」を実施
- ◆ BASICコース(2日間)のプログラムを終了し、認定を受けた受講者 34名中沖縄県からの参加者は 7名であった
- ◆ 参加者全体のうち 約5分の1を占め、研修中のグループワークにおいても、中心的な役割を担ってくださった。

すべての子どもたちの潜在的なSOSを早期にキャッチして適切な支援につなげる

YOSSマイスター養成講座

参加者募集

支援の見える化・子ども理解が進む



YOSSは山形県立研究所（大館公立大）が開発した子どものリスクを早期に学校にチーム体制を作るシステム。開発から進化を遂げ、協議協議の専門家とともに進化を遂げたものとして、Panasonicがクラウドサービスを提供するに至った。子ども・家庭支援システムです。学校において、すべての子どもたちの潜在的なSOSを早期にキャッチし、より迅速なことなく適切な支援へとつなげることを可能にします。

この講座はYOSSの効果を最大化し、教員の負担軽減と教育現場における実践的改善を促進する「YOSSマイスター」を養成するプログラムです。

YOSSについて学び、2つの会議を効果的に進めるファシリテーション技術を身につけて、チーム学校と子どもの未来の可能性を拓くことをめざします。

山野研究室×ひとまちのコラボ

講師 山野剛子 講師 ちよんせいこ

2023年 10-18時
12月16日(土) ~17日(日)

会場 岡山産業振興センター
(大分県別府市宮前町1-13-100)

参加費 10,000円~8,000円 (今年度特別価格)

対象 YOSSに取り組む(関心のある)自治体職員、学校教職員、SSWなど

申込 <https://forms.office.com/r/13HC9Hub86>

締切 2023年11月30日(木)

受講者に修了証を発行

福祉と教育の連携による予防システム

取り組みの成果

※2023年度 自治体職員研修(1)終了時

項目	自治体職員研修(1)終了時	研修参加者研修(1)終了時	研修参加者研修(2)終了時	本人研修者研修(1)終了時
YOSSの認知率	100%	100%	100%	100%
実践的活用率	100%	100%	100%	100%
実践的活用率	100%	100%	100%	100%
実践的活用率	100%	100%	100%	100%

YOSSマイスター養成講座の概要

1日	午	YOSSの概要・活用レッスン (理念・目的・仕組み説明、ゲームなど)
1日	午	ファシリテーション① (ストーリーングが効果的の仕組み)
	夜	ファシリテーション② (役割ゲーム含めた実践的活用)
2日	午	ファシリテーション③ (実践的活用含めた実践的活用)
2日	午	YOSSマイスターとして活動するために (アクションプラン作成、修了式)
	夜	

活動の成果3-③

◆ 受講者の声

＜学校実施をサポートする立場の参加者＞

県内受講メンバーと連携し、より良い子どもの支援の充実につなげたい

＜校内実施する立場の参加者＞

- ・スクリーニングの意義について改めて学び直しができました。
- ・「やって良かった」「おもしろい」となるよう、みんなと一緒に作っていけたらと思いました。



今後の課題

◆ YOSSを活用した学校版スクリーニングのさらなる拡充のために・・・

- ① 学校内でのキーパーソンとなりうる教員やSSWの養成
- ② 行政や教育委員会内において、学校版スクリーニングを導入し定着させる役割を担う人材の確保
- ③ 教育DX化においてスムーズなシステム構築が行えるネットワーク環境

が必要である。

目次

1. 調査概要

2. 連携手法分析 調査結果

3. スクリーニング普及拡大に関する活動報告

4. 総合考察

連携手法分析より

- ◆ 児童生徒全体で見ると、小学生において昨年度よりも点数(気になる項目のチェック数)が増加していた。
 - 子どもたちの状況が悪化したというよりは、現場の教員がYOSSの入力に慣れてチェックを付けやすくなった可能性が考えられる。
 - 今年度はYOSSクラウドサービス導入初年度であり、AI判定も導入されているため、支援の効果についても、次年度以降の結果との比較が必要である。
- ◆ 貧困世帯の子どもに対して、学業・学校生活分野での支援が有効であった。
 - 限定的な分析ではあるが、経済的に困難な世帯の子どもに対する有効なアプローチを見出した意味は大きく、今後さらなる検討を進めていく必要がある。

スクリーニングの普及拡大に関わる活動より

- ◆ 今年度多くの支援を行ってきた南城市の玉城中学校では、山野研究室が推奨する「スクリーニングの6工程」に沿って会議が行われており、地域や行政を巻き込みながら子どもを支援する体制が定着してきていることは評価できる。
- ◆ 先ほど述べた沖縄県における課題は、全国共通の課題でもあり、「こども未来創造コンソーシアム」内でも協議していくと同時に、沖縄県で得られた取り組みの成果を反映していくことが重要である。

Y^oS^s 導入の6工程

作成：大阪公立大学山野研究室

スケジュール参考例

4月
スタート

8月
スタート

1	研修	研修① スクリーニングの意義を理解する 研修② スクリーニングチェック、会議の模擬体験	4月 (春休み) 5月	8月 (夏休み) 9月
2	振り返り 打ち合わせ	研修の振り返り スクリーニング会議に向けての事前打ち合わせ	6月後半	10月後半
3	スクリーニング会議	スクリーニング会議 実施	7月	11月
4	振り返り 打ち合わせ	スクリーニング会議の振り返り 校内チーム会議に向けての事前打ち合わせ	7~8月	11~12月
5	校内チーム会議	校内チーム会議 実施	8月 (夏休み)	12月 (冬休み)
6	振り返り	校内チーム会議の振り返り	8月後半	1月